

CASBEE_Sapporo2014v1.0
 紀文フレッシュシステム札幌新センター新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.0
 ■評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		重点評価項目: W 省エネルギー・省資源、G 緑化、S 雪処理		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点評価項目			環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
	W	G	S							
Q 建築物の環境品質										2.8
Q1 室内環境										2.8
1 音環境						2.5	0.15			2.5
1.1 騒音						3.0	0.40			
1.2 遮音						1.8	0.40			
1 開口部遮音性能						1.0	0.60			
2 界壁遮音性能						3.0	0.40			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音						3.0	0.20			
2 温熱環境						2.2	0.35			2.2
2.1 室温制御						2.8	0.50			
1 室温				W	ウレタンボードt50(屋根側)、GW24kt100(外壁面内壁)、複層ガラスの採用	3.0	0.38			
2 外皮性能						4.0	0.25			
3 ソーン別制御性						2.0	0.38			
2.2 湿度制御						1.0	0.20			
2.3 空調方式						2.0	0.30			
3 光・視環境						2.9	0.25			2.9
3.1 昼光利用						2.4	0.30			
1 昼光率						2.0	0.60			
2 方位別開口										
3 昼光利用設備				W		3.0	0.40			
3.2 グレア対策						3.0	0.30			
1 昼光制御				W		3.0	1.00			
3.3 照度						4.0	0.15			
3.4 照明制御					事務室で500lx	3.0	0.25			
4 空気質環境						3.7	0.25			3.7
4.1 発生源対策						4.0	0.50			
1 化学汚染物質					内装材は規制対象外・F☆☆☆☆を全面的に使用	4.0	1.00			
2 発熱体対策										
4.2 換気						3.6	0.30			
1 換気量						3.0	0.33			
2 自然換気性能					事務室で1/30以上	4.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮					事務室の給気位置は排気位置と距離をとっている	4.0	0.33			
4.3 運用管理						3.0	0.20			
1 CO ₂ の監視										
2 喫煙の制御						3.0	1.00			
Q2 サービス性能							0.30			2.9
1 機能性						2.6	0.40			2.6
1.1 機能性・使いやすさ						2.0	0.40			
1 広さ・収納性						1.0	0.33			
2 高度情報通信設備対応						2.0	0.33			
3 バリアフリー計画						3.0	0.33			
1.2 心理性・快適性						3.0	0.30			
1 広さ感・景観						1.0	0.33			
2 リフレッシュスペース					更衣室内の畳スペース+喫煙室+食堂	4.0	0.33			
3 内装計画					建物全体のコンセプトや機能が明確であり、内装計画に反映している	4.0	0.33			
1.3 維持管理						3.0	0.30			
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50			
3 維持管理業務										
2 耐用性・信頼性						3.2	0.30			3.2
2.1 耐震・免震						3.0	0.50			
1 耐震性						3.0	0.80			
2 免震・制振性能						3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数						3.9	0.30			
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				W	ガルバリウム鋼板40年	5.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				W	床:タイルカーペット15年、壁:クロス15年、天井:クロス15年	4.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				W		3.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				W	給水汚水雑排水管の主要用途3種についてB以上で、Eは不使用	5.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔				W		3.0	0.20			
2.4 信頼性						2.8	0.20			
1 空調・換気設備						3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備						2.0	0.20			
3 電気設備						3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20			
5 通信・情報設備						3.0	0.20			
3 対応性・更新性						3.2	0.30			3.2
3.1 空間のゆとり						3.4	0.30			
1 階高のゆとり						3.0	0.60			
2 空間の形状・自由さ					工(1階)壁長さ比0.109、事(1階)0.306	4.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり						3.0	0.30			
3.3 設備の更新性						3.4	0.40			
1 空調配管の更新性						3.0	0.20			
2 給排水管の更新性						3.0	0.20			
3 電気配線の更新性					ケーブルラック・天井内隠蔽配線・電線管配線、天井点検口等	5.0	0.10			
4 通信配線の更新性					ケーブルラック・天井内隠蔽配線・電線管配線、天井点検口等	5.0	0.10			
5 設備機器の更新性						3.0	0.20			
6 バックアップスペースの確保						3.0	0.20			

CASBEE_Sapporo2014v1.0
紀文フレッシュシステム札幌新センター新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.0
■評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.1)

スコアシート		実施設計段階		重点評価項目: W 省エネルギー・省資源、G 緑化、S 雷処理		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点評価項目	W	G	S	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q3 室外環境(敷地内)						-	0.39	-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出			G			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			G		外装はモダン基調、建物高さを低く抑えるなど周囲の圧迫感に配慮	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮						3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				S		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		W	G			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性						-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー						-	0.40	-	-	2.7
1 建物外皮の熱負荷抑制		W			建物の断熱を適切に配し、外壁や窓を通しての負荷に配慮	4.0	0.03	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用		W				3.0	0.12	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化					BEI 非住宅 0.92 住宅(専有部) -	3.0	0.61	-	-	3.0
集合住宅以外の評価(3a,3b)		W				3.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)		W				-	-	-	-	
4 効率的運用						2.0	0.24	-	-	2.0
集合住宅以外の評価						2.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング		W				3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		W				1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価						-	-	-	-	
4.1 モニタリング		W				-	-	-	-	
4.2 運用管理体制		W				-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル						-	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護						3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水					衛生器具は少ないが、節水型便器や水栓を積極的に採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用						3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無						3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無						3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減						3.3	0.60	-	-	3.3
2.1 材料使用量の削減		W				2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		W				3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		W			-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		W			フリーアクセスフロア	3.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		W				-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		W			内装が乾式工法で分別性・設備との錯綜に配慮、OA707採用	5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避						3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用						3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避						4.0	0.70	-	-	
1 消火剤		W				-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		W			GW採用のほか、発泡系はノフロン(現状ノフロン製品のみ流通)を採用	5.0	0.50	-	-	
3 冷媒		W				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境						-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮					消費エネルギー削減により運用時のLCCO2排出量低減に配慮	3.1	0.33	-	-	3.1
2 地域環境への配慮						3.6	0.33	-	-	3.6
2.1 大気汚染防止		W			燃焼機器がない	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		W	G	S		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制						3.7	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		W			行政指導にのった排水対策を実施	4.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制						3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制					敷地内に駐輪場、駐車場を配置(必要台数分)、搬入用スペース考慮	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		W		S		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮						3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止						3.0	0.40	-	-	
1 騒音						3.0	1.00	-	-	
2 振動						-	-	-	-	
3 悪臭						-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制						3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制						3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制						3.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制						3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制						4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					光害チェックリストを過半満たす、広告物照明がない	5.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策						3.0	0.30	-	-	